



独立行政法人



国立病院機構

うれしの

NHO URESHINO MEDICAL CENTER

第15号

発行所

嬉野医療センター

佐賀県嬉野市嬉野町

大字下宿丙 2436番地

印 刷 陽文社印刷株

2007.10



「秋の光に映えて」 産婦人科 梅崎 靖

患者さんの権利

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7 繼続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4 プライバシーが守られる権利 | 8 生活の質（QOL）や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

おひな月

- ② 新臨床研修制度について
 - ③ 地域医療連携推進セミナーを行って／花だより
 - ④ ちけん室コーナー
 - ⑤ 作業療法士とは…
 - ⑥ NST講習会を開催して
- 第16回母乳育児シンポジウムに参加して

- ⑦ 研修会報告
- ⑧ 健康フェスタ／看護フェア
- ⑩ 第18回嬉看祭を終えて／ふれあい看護体験を受け入れて
- ⑪ 看護学校校舎新築について／2007年カレンダー（10月～12月）
- ⑫ 新人紹介
- ⑭ 外来診療担当医表／編集後記



新臨床研修制度について

副院長 河部庸次郎

医療の専門化が進むにつれて、専門分野以外の医療に無関心な医師が増えたりました。この制度は、国家試験を合格して医師になった臨床研修医が2年間の研修過程を経験することを必要とします。当院でも研修医として各診療科で研修している先生方は、当院をこの2年間の研修病院として選んでくれた方々です。

この制度では、内科、外科、産婦人科、小児科、救急(麻酔)、精神科、地域医療を決められた期間以上の研修が必要です。勿論、すべての制度にメリット、デメリットがあると思われますが、この制度にもいい面とそうでない面があります。新臨床研修制度では、殆ど全ての医師が上記の基本的な診療科を経験することになり、今までより幅の広い医師の養成が可能となると云えます。しかし、その分専門医になる為にはやや時間を必要とすることになります。

こうして始まった新臨床研修制度ですが今年で4年目となり、今後、この新制度で育ってきた医師たちによって、この制度の本当の良し悪しが判断されることになると思います。しかし、この制度だけの問題ではありませんが、こ

こ数年間でも医師不足についていろんな報道がなされています。これは、今までいろんな病院に医師を紹介していた(派遣していた?)大学で、研修する研修医が極端に減少したからに他なりません。また、自由意志で選択されるそれぞれの専門分野が、研修医制度による選択の幅の自由化の為に、どうもバランスを失っているようにも思えます。従来は、出身大学医局で、それぞれ診療科がそれぞれの地域で必要な学生をなんとか確保して診療科を維持していました。勿論、この場合も選択は学生の自由裁量です。今、このような診療科のアンバランス(例えば、産婦人科医が非常に少ない)を何とか是正しようという動きがあります。

しかし、これらを是正できるのは現在、臨床研修を行なっている研修医の先生方の確かな判断力と医師会、医療界全体でいい医療制度を作ろうとする諸先生方の努力に関わるものと思われます。

皆さんには、当院で研修し成長している研修医たちをこの地域の将来の為にも是非とも暖かい目で見ていただければと思います。





地域医療連携推進セミナーを行って

感染管理認定看護師 岩谷佳代子

地域医療連携室の取り組みで、多くの職種にわたる医療従事者を対象とした医療情報の発信に努めるという目的で、看護師によるセミナーを企画しました。院内での開催ではなく、地域で行うことで、施設間での看護の連携を行える糸口にしていけるように、また、佐賀県での感染管理認定看護師が1名ということもあり、地域への専門的知識の提供と情報交換を行うことを目的といたしました。

武雄杵島地区医師会と鹿島藤津地区医師会の御協力をいただき、7月18日(武雄会場)と8月22日(鹿島会場)に、「医療関連感染における看護師の役割」という演題で、講演をさせていただきました。

夕方からの講演であったにも関わらず、武雄会場では143名、鹿島会場では83名と地域の病院、老人保健施設や看護学校等の多くの施設より参加をしていただきました。

今回の講演は、院内感染から医療関連感染へという言葉



や考え方の変遷から、医療関連感染対策のために、病院という組織の役割と対策を実践する看護師の役割等について行いました。感染対策のために看護師ができることは、1.正しい知識を持つこと 2.正しく実践すること 3.実践した対策を評価・修正すること、ですがその前に「関心を持つこと」が第一歩であると考えます。また、感染対策は患者だけでなく、医療従事者自身を守るものでもあるため、「自分自身の健康管理」も忘れてはならない対策の一つです。

今回の講演では在宅における感染対策の問題点や、病院から施設へ転帰する場合の患者、家族への感染対策における指導の必要性など、当センターにおいても取り組む必要のある課題を知ることができました。私自身も学ばせていただく大変有意義なセミナーでした。

セミナー開催に於いて御協力いただきました医師会の方々、参加していただいた皆様へ感謝申し上げます。

花だより りんどう

計屋絃信

今号は「りんどう」について少し書きました。

りんどうの名は漢名「竜胆」の詠みが訛ったものと言われています。

根を乾燥させたものは竜の胆のように苦いという比喩から名づけられ、古くから食欲不振、消化不良を解消する薬として用いられてきたようです。

晩秋に清楚な紫色の花を咲かせ、花言葉は「悲しみに寄り添う」「誠実」などです。

島倉千代子の3大名曲のひとつに昭和30年の「りんどう峠」があります。

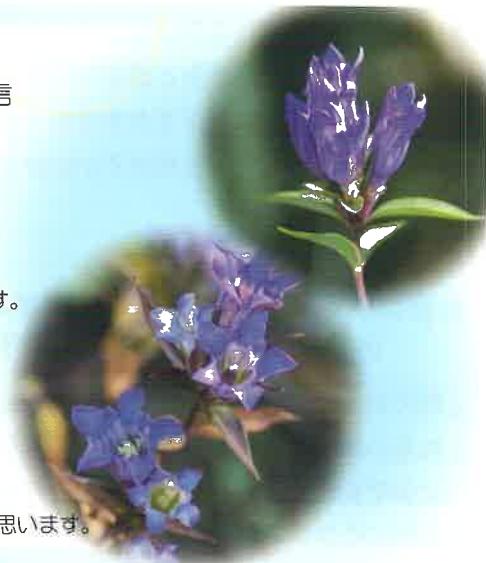
「りんりんりんどうの 花咲くころさ

姉さは馬子で あ嫁に行った

りんりんりんどうはこむらさき

姉さの小袖もこむらさき こむらさき」

古賀政男作曲、西条八十作詞の少し古い歌ですが、年配の方にはなじみの歌だと思います。



うれしの かいたん 室コーナー

治験管理室 CRC 岩永由香



今回のお題 CRCのお仕事⑤

治験の厳格なルール「GCP」について

治験は製薬会社が都合のいいように計画して実施できるものではありません。治験では「くすりの候補」を人に試すことになるため、治験に参加していただく方の権利や安全が最大限に守られなければなりません。同時に「くすりの候補」の効き目(有効性)や副作用(安全性)は正確に調べる必要があります。そのため治験の実施については厳格なルールが国によってきめられています。このルールには「薬事法」とこれに基づいて国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」(GCPと呼ばれます)があり、治験を実施しようとする製薬会社や医療機関、医師はこれを守らなければいけません。

少々かたい話になりましたが、GCPの中身について少しあ話をします。

治験の内容を国に届け出る必要があります。

製薬会社は治験の計画書を国に提出し、治験の実施を申請します。国は「くすりの候補」を人に使っても安全かどうか、計画書が適切に作られているかを調査します。国からの許可のあった治験だけが実施できます。

治験審査委員会での承認が必要です。

医学薬学の専門家以外や院外の委員も参加して「この病院でこの治験を実施しても安全か」、「患者様の権利は守られるか」ということについて話し合います。この委員会と院長の了解がなければ医師は治験を行うことができません。治験中に副作用が出た場合も治験を続けていいかどうかが話し合われます。

文書による同意が得られた患者さんのみに治験に参加していただきます。

治験の目的や方法、期待される効果、起こるかもしれない副作用、治験以外の治療方法などについて文書で説明し、同意していただいた患者様だけに治験に参加していただきます。

重い副作用は国に報告しなければなりません。

治験中に重い副作用が起こったら直ちに病院から製薬会社に連絡され、厚生労働省に報告されます。患者様の安全を確保するために治験の計画書の見直しなどが行われます。

製薬会社の担当者が治験の進行を調査にきます。

医師が治験の計画書やGCPの規則を守って正しく治験を行っているかどうかを製薬会社の担当者が確認します。この際カルテなどを見ることがありますが、患者様のプライバシーが外部に漏れることはありません。GCPでは患者様のプライバシーを厳重に守ることが決められています。GCPを守っているかどうか、厚生労働省から病院の調査にくることもあります。

これ以外にもたくさんの決まりごとを守って治験は行われています。





作業療法士とは。。。

リハビリテーション科作業療法士 山口 みづほ

当院は平成12年国立療養所武雄病院と統廃合を機に、循環器内科・心臓血管外科・脳神経内科・脳外科などが開設され救急病院として大きく踏み出しました。時を同じくして、理学療法士(PT)だけの『理学療法科』から作業療法士(OT)の採用により『リハビリテーション科』に標榜が変更になりました。現在、若干スタッフが増えリハビリテーション科はPT 6名・OT 3名・言語聴覚士(ST) 1名で活動しています。

さて『作業療法士』という職種ですが、病院によってPTとOTの役割りや対応疾患が異なります。当院では脳卒中・手の骨折・大腿骨頸部骨折・廃用性症候群の方を中心身身体的なリハビリや患者様の状態に合わせた日常生活動作に対しての動作指導を行っています。

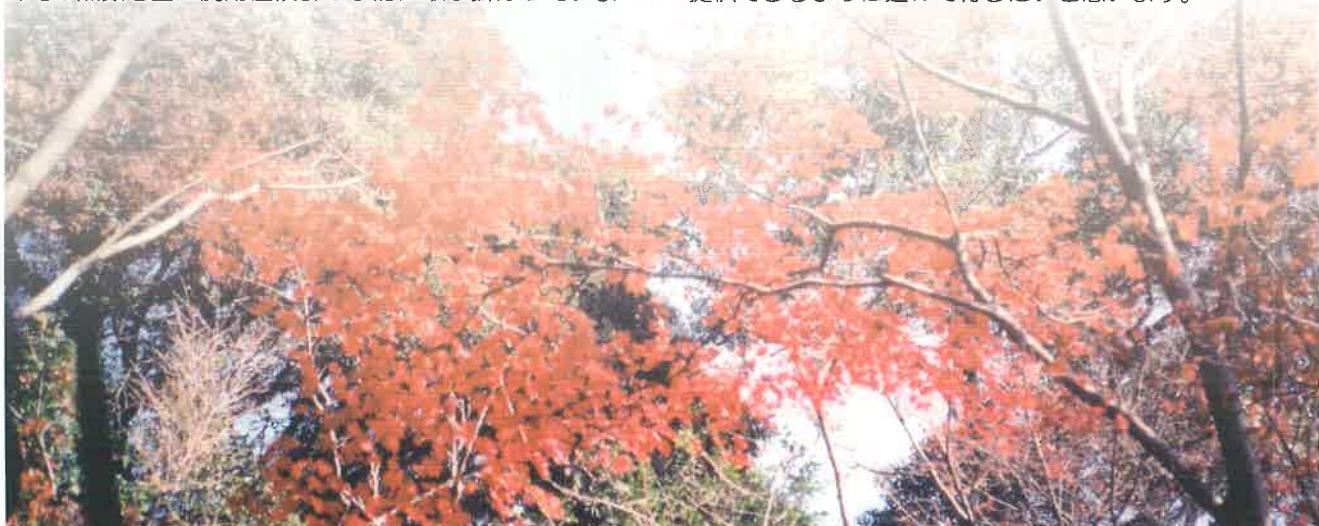
手が不自由な方で『ナースコールが押せない』場合や食事動作や排泄動作が上手く出来ないなど、困ったことがあればお気軽に声を掛けて下さい。福祉用具や環境調整・ポジショニングなどで、患者様・スタッフが動きやすくなるように出来るだけ対応させていただきます。

開設当時より、『作業療法士』と名乗ると患者様・スタッフ共に『んっ・・・?』の連続でした。当院はリハビリ専門病院ではないため職種を前面に出さず、馴染みのあるわかり易い言葉で『リハビリ科の・・・』と説明に変えていたので更に分かりにくい職種にしてしまいましたが、この紙面を機に多少のご理解をいただければと思います。

話は変わりますが・・・、看護師が入院患者さんに対して行っている『転倒・転落アセスメントスコアシート』の点数を基に廃用症候群の予防に取り掛かっています。



す。リハビリと直結しない疾患の患者様の中にもリハビリの必要性を感じることがあり、病棟スタッフと相談しながら対応しています。また、リスク部会(看護部)と共に、ベッドサイド周辺や福祉機器を中心に転倒予防目的の『環境チェック!』も開始しました。どちらも開始したばかりですが、安全で動きやすい入院生活が提供できるように進めて行きたいと思います。





NST講習会を開催して

東2病棟 看護師長 松本 真由美

去る9月7日、看護部教育委員会とNST委員会共催の集合教育が実施されました。講師に九州医療センター（小児外科医長）の山内健先生をお迎えし「九州医療センターにおけるNSTのあゆみー立ち上げから現在の活動状況までー」というテーマで講演をしていただき、院内外から、約120名の参加がありました。

その中で「NSTの立ち上げ当初から院内の理解を得るまでには時間を要したこと、多職種が集まりランチョンミーティングで情報交換を行いながらラウンドに生かしていること」など活発に取り組んでこられた経緯を知り、委員会メンバーも大いに刺激を受けました。

現在当院のNSTは毎週木曜日にラウンドを行い、低栄養の患者様に対し栄養管理の方法を検討しています。これからも、NST委員長の柴田良仁先生を中心に活発な活動を行い、患者様の栄養状態の改善に努めていきたいと思います。



喫食率が低下している、アルブミン値が低い、褥瘡があるなどの患者様が居られましたら、NST委員へ情報提供をお願い致します。



第16回

母乳育児シンポジウムに参加して

西3病棟 助産師 山下 直子

第16回母乳育児シンポジウムが、2007年7月28、29日に富山県富山市のオーバードホールにて開催されました。参加総数は900名程で、医師（産科医、小児科医）、助産師、看護師、保健師、母親等の参加もあり、一般演題は16題、その他にポスター展示も多数ありました。今回、一般演題で、病棟で取り組んだ「病棟スタッフによる母乳育児のエモーショナルサポートに関する調査～褥婦へのインタビューをとおして～」を発表することができました。全国規模での発表は初めてでとても緊張し、発表に関して貴重な意見も頂きました。私たちが行っている母乳育児を見直すいい機会にもなりました。これから、BFH認定取得にむけ、病棟スタッフと共に母親の気持ちに近づき援助を行っていきたいとも思います。



研修会報告



平成19年度循環器病診療に従事する医師・看護師の研修 ～SCU課程（看護師）に参加して～

東2病棟 看護師 副島 あかね

国立循環器病センターで7月16日から7月27日まで研修に参加させていただきました。これまで脳循環のみにとらわれて観察、判断を行っていましたが、体循環の視点から判断する事も重要である事を認識することができました。当院での患者評価では脳血管障害の病巣部位を意識した視点が不足していると思われ、今後神経症状に対する観察レベルの向上に取り組む必要があると考えます。また、昨年よりプリセプターとして新人教育に関っていますが国立循環器病センターでは根拠ある看護判断をするよう指導されていました。同院の看護師平均年齢は27～28歳と若く、スタッフの中でSCU病棟の1/3が1・2年目であるためアセスメント力の強化や判断力を求められました。一番興味深かったことは2年目の看護師に

対して、先輩看護師が1日だけであるが直接指導し、先輩がどのように判断して行動しているかわかるようにされていました。先輩の判断をみるとことにより自分の不足点に気付くことができると評価されており当病棟でも取り入れていきたいと思いました。

今回の研修では国立循環器病センターのSCUの実際を見学し多くの学びを得る事ができました。脳卒中看護の方向性は同じであるが、知識や判断力において専門性を強化していく必要があると強く感じました。この研修で自分の今後の課題が明確になり、改善点・方法論を他のスタッフへ情報提供を行い、これまで以上に嬉野医療センターでの脳卒中看護の質の向上に努めていきたいと思います。



看護師等実習指導者講習会に参加して

西4病棟 看護師 内田 美鈴

8月17日から10月12日までの38日間独立行政法人国立病院機構九州医療センターで行なわれました看護師等実習指導者講習会に東2病棟副看護師長 池田啓之さん、西2病棟副看護師長 池田藤子さんと共に参加させていただきました。今回は、九州ブロック事務所が主催で、九州ブロック管内の病院から43名の講習生が集まりました。

まずは講義から始まり、教育原理、コーチング、教育心理などを学びました。

この中で青年心理の講師が青年期の特徴として、1返事がない、遅い、曖昧 2指示待ち、または指示をするだけ 3無言、無表情 4改善すべき点を認めない(素直じゃない) 5打たれ弱い(すぐ泣く)といった傾向があると話されました。私が臨床で感じていたことと同じでした。その背景には、現代青年は、学校では人間関係を形成していて集団を乱さない、指示に従うといった1対多数の教育だったり、評価を恐怖に感じ取り、劣等感といった形で現れる。また、コーチングの講師は、現代の学生は、「考える」といった単語はない。教えてもらうために学校にいくと言う考え方であるなど、話されました。

だからこそ「考える」という習慣がつくような関わりが重要な事を教えていただきました。一つ一つの講義がこれまでの学生への接し方を振り返るきっかけになりました。

私は、学生に何を伝え、何を教え、何を考えて欲しいのか、そして患者様にどのような看護を提供してもらいたいのかを考えさせられました。また学生には、看護の楽しさも学んで欲しいし、患者様の症状ばかりに捉われず、その人の人生観や、生きがいを見落としてはならないと思います。私は今回の講習で人に自分の意思を伝える事の難しさを学びましたし、学生を理解しようとする関わりを持つようになりたいと思っています。私と学生との年齢に差が出始め、学生の気持ち、立場を捉えることが難しくなってきていますが、自ら歩み寄ろうという努力をしていきたいと考えています。「学生育ては自分育て」を忘れずに心がけていきたいと思っています。

今回の研修に快く参加させて頂いた看護部長さん、病棟長さん、スタッフの皆様に感謝すると共にこれから的学生指導、新人指導に役立てられるよう実践していきたいと思います。



健康フェスタを開催して

実行委員長 外科系診療部第2部長 古市 格

「今のが体は、未来の体」をテーマに、当院から地域に健康の大切さを伝えようと、10月5日～6日に、当院にて第1回目の健康フェスタを開催いたしました。たくさんの方々に参加していただき、大変ありがとうございました。

内容は、小学生を対象に病院体験見学ツアーをおこない、一般を対象に、心肺蘇生の基礎とBLS講座・禁煙をテーマにしたポスター展示・健康体操や筋力測定・福祉相談・薬剤相談・栄養相談・体脂肪や骨密度を検査する健康測定コーナー・お肌のチェックコーナー・健康川柳・専門医による健康講座(睡眠時無呼吸、消化器や肺のがんの鏡視下手術、メタボリック症候群)と盛りだくさんの内

容でした。健康講座では三原先生、柴田先生、岡先生と星子先生にお話していただき、会場からの質問にも十分答えていただき有意義な時間だったと思います。またプログラムの最後にはコンサートももたれました。

小学生の体験ツアー(約40人)は、計画した私たちの楽しみでもあり、彼らにも大切な思い出となったと思います。

地域医療の崩壊が取りざたされる現代において、地域の医療は地域で守るべきだと思います。このフェスタが疾病予防や医療を目指す人材確保のため、ひとつの試金石となればいいと感じました。

皆様ありがとうございました。

玄関前

体験ツアーに出発する前にキティちゃんの前で、記念撮影。元気一杯の笑顔です。

ボイラーの皆さんの手作りです。
本物そっくりですよ!

院長室で

院長先生ってどんな人?
病院で一番えらい人だつて?
笑顔の優しい先生でした
とってもやさしく教えてくれました。

ツアーノ後

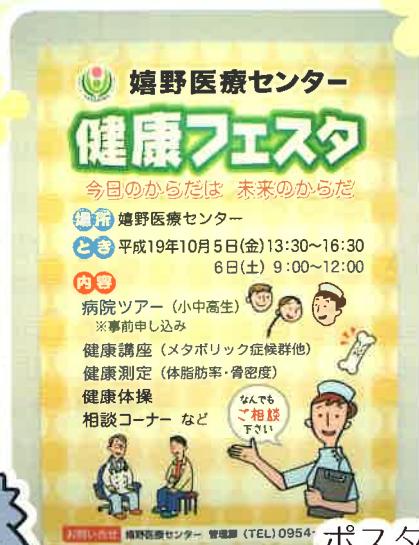
今日の感想を言つもらいました。終わったあとミニティイング…
たくさんの驚きと感動があったかも…
おやつのジュースを飲んで一息…ほつつ…



お肌のチェックコーナー



お薬相談コーナー



ポスター



展示コーナー



健康フェスティバルコンサートを開催して

嬉野医療センター音楽部代表 計屋 紘信

第1回目の健康フェスティバルの中で、プログラムの最後としてコンサートが開かれました。

演奏者は4名と少なかったですが、会場の受付前のホールは入院患者さん、外来患者さん、院外の方、職員でいっぱいでした。

歌詞カードの入ったチラシを200枚作りましたが、全部皆さんに手渡したようです。

演奏した曲は前回前々回に演奏したものでしたが、ひとつやや難しいのがあり、心配していましたが、本番ではしっかり合奏できました。

健康フェスティバルをお祝いしてコンサートができましたことを、ご報告いたしました。

写真は演奏中のスナップと、会場の皆さんの模様です。最後に実行委員長の古市部長の挨拶がありました。



第38回 嬉看祭を終えて



实行委員長 第54回生
栗山 春花

今年度の嬉看祭で特に印象に残ったことは、学生や先生方に「学校の思い出の写真」を呼びかけ、その写真を廊下に展示したことです。1人ひとり写真が違っていて学校や学校で出会った仲間達との思い出がうかがえ、それぞれの“ありがとう”という思いが写真を通して伝わってきました。写真の展示は好評で見る人は笑顔で見られていて楽しんでいただけていることがわかり、大変嬉しく実施して良かったと強く思いました。

实行委員として全体をまとめしていくことは大変でしたが、その分感動は大きく、すばらしい嬉看祭を皆で作り上げることができました。多くの人々の力があってからこそ無事にやり遂げることができたのだと思います。

本当にありがとうございました。



副实行委員長 第54回生
鴨川 美和

10月5日、第38回嬉看祭を無事終えることができました。今年は例年と異なり、学校での開催となりました。初めてということもあり、準備も戸惑うばかりで、各係りにも迷惑をかけてしまったことは私自身の反省点です。何とか終わることができたのも、多くの人の協力があったからだと思います。協力してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年のテーマは、学校が移り変わるため、今までお世話になった学校に感謝の気持ちを込めるということで「Home～ありがとうの思いを込めて」としました。

看護においても「ありがとう」の言葉は大きな意味を持ち、患者様から感謝の気持ちを伝えられた時、看護のすばらしさを改めて感じることができます。

今まで、一緒に過ごしてきたこの学校に「ありがとう」の思いを残し、新しい学校でもたくさんの看護を学んでいけたらと思っています



ふれあい看護体験を受け入れて

東1病棟 看護師 中村 陽一郎

将来、医療従事者を目指して行こうと考えている、武雄高校の2年生を受け入れ、ふれあい看護体験を行いました。初々しさと、若さあふれる高校生を前にして、昔の自分を思い出しました。私も高校3年生の頃に看護師になると心に決め、今の自分があります。今回のふれあい看護体験では、看護のすばらしさや楽しさ、やりがいのある仕事という事を感じてくれるような関わりを行ったつもりです。この先、彼らがすばらしい医療従事者になってくれれば、今回の関わりも良かつたのではないかと思います。





看護学校校舎新築について

看護学校 教員 今本 文子

平成19年8月17日 照りつける太陽と雲一つない青空の下で嬉野医療センター附看護学校更新築整備工事安全祈願式が執り行われました。

開式後、祭主による祝詞奏上など式は厳かに進行しました。鍵入の儀では、古賀学校長による刈初の儀が行われ、出席者全員で工事の安全を祈願しました。澄み切った青空が工事の安全を保障しているようでした。この土地に新たな学校が建ち、新築の香りのする設備の充実した環境で学ぶ学生の笑顔が目に浮かびます。

新校舎は2月4日に完成する予定です。車の出入りや工事の音などでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願ひ致します。



2007年 カレンダー(10月~12月)

医療安全管理委員会 リスクマネージメント部会 看護部リスクマネージメント部会

安全な看護は 心のゆとりから

東4病棟

2007年 10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

医療安全管理委員会 リスクマネージメント部会 看護部リスクマネージメント部会
嬉野医療センター

ヒヤリハット人が起こせばみんなの責任
(手術室)

「あれ?」その感覚はみんなでもなきゃいけないよ(西)

確認は 手法 所属 回数まで(東)

迷ったら 確認しよう(西)でも(東)でも

2007年 11月

日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30		

医療安全管理委員会 リスクマネージメント部会 看護部リスクマネージメント部会
嬉野医療センター

その説明 ほんとにわかった? 同席者(企画課)

西江口実は(西)

ミス防止「指さす」テクニク「キーワード」(東)

あなたがなぜ 確ける事が多いの?(企画課)

2007年 12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

医療安全管理委員会 リスクマネージメント部会 看護部リスクマネージメント部会
嬉野医療センター

新人紹介

医局



救急センター長
吉田 昌人

9月より救急センターに赴任いたしました吉田です。

佐賀大学出身で、卒業後は救急部、麻酔科、内科を研修した後、県立病院好生館の救命救急センター、佐賀大学附属病院 ICU で働いてきました。

専門は救急医学、集中治療医学です。高校にはアメリカンフットボール、大学には空手をしに通っていたようなもので、40をとうに過ぎた今も、心優しい体育会系のつもりであります。救急センターは、急病や怪我で受診された方々の最初の診察処置をさせていただきます。全身の状態の安定化を図りながら、何が問題なのかを評価し、重症度を判定した上で、各科専門医の専門的な治療に引き継いでいきます。いわば急患の方々を受け入れる窓口といったところでしょうか。

救急医療においても嬉野医療センターは佐賀県西南部をカバーする中核病院であると認識しています。その救急センターに専従することになり、少なからぬプレッシャーを感じておりますが、地域の皆様方に信頼され、安心できる質の高い救急医療を提供できるよう努力してまいります。

当初は1人体制での出立ですので、皆さんにご迷惑をお掛けすることも多いかと存じますが、よろしくお願ひいたします。



臨床研修医
黒木 淳

佐賀大学から参りました、研修医2年目の黒木淳と申します。嬉野医療センターでは心臓血

管外科、小児科、産婦人科で研修をさせていただきます。心臓血管外科からスタートし1週間が過ぎましたが、内容の濃さに1ヶ月経ったような気が致します。少しでも皆さんのお役に立てるよう努力してゆきたいと思います。来年3月までの短い期間ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。



臨床研修医
山本 格士

はじめまして、研修医2年目の山本と申します。佐賀大学を卒業し、今年の9月まで同大学附属病院で研修しておりました。10月から半年間こちらでお世話になることになりました。現在 産婦人科を研修中で、この後 小児科・呼吸器科・消化器科をローテーションさせていただきます。慣れないことばかりで何かとご迷惑おかけするかと思いますが、ご指導の程よろしくお願い致します。

看護部



副看護部長
藤瀬 日出美

長崎医療センターから昇任で参りました藤瀬です。私が当病院で最初に感銘したことは、草一つない整備された環境とその中で勤務するスタッフさん達の明るい挨拶と心のこもった対応です。思わず・・・「どんと晴れ」のおもてなしの心を感じました。そのようなスタッフさん一人ひとりの病院を愛する思いを大切にし、地域への貢献と病院発展のために微力ではございますが専心職務に励みますので、どうぞよろしくお願いいたします。



西1病棟看護師

森 由美子

9月25日より、西1病棟に勤務しております、森由美子です。

嬉野医療センターには、看護学校時代いスポーツ交流会で訪れたことがあります、院内は今回が初めてです。ここは敷地が広くて広くて。しょもない方向音痴なので、ちゃんと把握するまで、まだまだ時間がかかりそうです…。

まだまだ慣れないことが沢山ですが、早くこの病院に慣れるように頑張ろうと思います。皆さんよろしくお願ひします。



西4病棟看護助手

坂本 佳代子

私は8月下旬から、看護助手として西4・東4病棟で務めています。ようやく仕事にも慣れてきたところですが、まだまだ覚えなくてはならないことが沢山あり、先輩方の指導のもと一生懸命頑張っているところです。こんな私ですが、嬉野医療センターに就職するまでは、准看護学校で看護を学んでいました。実習先は嬉野医療センターでしたが、質の高い看護をされている看護師さんにあこがれを抱き、今、こうして看護助手として働けることに喜びを感じています。これから目標は、一人ひとりの患者様に合わせた看護のお手伝いが出来るようになることです。日々初心を忘れずに頑張りたいと思います。



事務部



経営企画室長

大石 和男

10月1日付で九州医療センターより昇任で参りました大石と申します。6年半年ぶり2回目の勤務です。前回は2年9ヶ月間勤務をさせて頂きました。

挨拶回りで久しぶりにお会いする方もおられ、大変懐かしく思いました。

武雄病院との統合で職員が増え、建物が整備される中、非常に忙しかったことが思い出されます。今回、病院に来て当時より更に整備されきれいになったのを見て驚きました。

前施設では管理課にいましたので、患者数とか診療点数等にはあまり関係する部署ではありませんでしたが、当病院では経営企画室という病院経営に直接関係する部署です。中期計画、経営戦略等考えますと身が引き締まる思いです。

患者数、診療点数においても努力したいと考えますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



企画課契約係

朝長 幸彦

はじめまして。10月1日より、嬉野医療センターに新採用になりました、朝長幸彦です。出身は長崎市の海と山に囲まれた田舎町です。

仕事をする事は初めての経験で、すること全てが新鮮で楽しい反面、不安もあり、毎日ドキドキしながら仕事に取り組んでいます。

今は仕事を覚えることで精一杯でみなさんはご迷惑をおかけしますが、一日も早く仕事を理解し頑張っていこうと思いますのでご指導よろしくお願い致します。

嬉野医療センター・外来診療担当医表

区分		月	火	水	木	金
呼吸器科	午前	副島 佳文 飯田 哲也	三原 智	副島 佳文	飯田 哲也	三原 智
消化器科	午前	町田 治久(消化管) 川副 広明(肝臓)	鶴田 英夫(消化管) 藤本 優(肝臓)	町田 治久	鶴田 英夫(消化管) 藤本 優(肝臓)	川副 広明
循環器内科	午前	泉川 卓也 吉田 健夫	波多 史朗	吉田 健夫	波多 史朗 吉田 健夫	泉川 卓也
心臓血管外科	午前	須田 久雄(予約新患) 力武 一久	須田 久雄(予約新患) 力武 一久(予約新患)	須田 久雄(予約新患)	須田 久雄(予約新患)	須田 久雄 力武 一久
糖尿・膠原内科	午前		田中 史子		田中 史子	河部庸次郎
リウマチ科	午前	河部庸次郎		荒武弘一郎	荒武弘一郎	田中 史子
神経内科	午前	林 隆太郎	有廣 昇司	林 隆太郎		有廣 昇司
腎臓内科	午前		宮崎雅也(整形で診療)		宮崎雅也(整形で診療)	
小児科	午前	中富 明子	西村 洋一	佐藤 忠司	古賀 正啓 小児腎臓外来第2木曜(診察 14:00 ~ 17:00)	西村 洋一
	午後	佐藤 忠司 (診察 14:00 ~ 16:00)	乳児検診 (診察 14:00 ~ 16:00)		心臓外来第4木曜 (診察 14:00 ~ 16:00)	中富 明子 (診察 14:00 ~ 16:00)
外科	午前	岡 忠之①②④	生田 安司①②④	黒 和夫①③	柴田 良仁①③	荒井 淳一①③
	午後	岡 忠之・生田安司(乳腺外来) (診察 14:00 ~ 16:00)				
整形外科	午前	村田 雅和 久芳 昭一 宮路 剛史	北島 将 古川 晃郁 宮田 倫明	古市 格 村田 雅和 宮路 剛史	北島 将 宮田 倫明	古市 格 古川 晃郁 久芳 昭一
脳神経外科	午前	石橋 秀昭	宮園 正之		宮園 正之	
皮膚科	午前	陳 文雅(新患) 山本 雅一(再来)	山本 雅一(新患) 陳 文雅(再来)	陳 文雅(新患) 山本 雅一(再来)	山本 雅一(新患) 陳 文雅(再来)	陳 文雅(新患) 山本 雅一(再来)
泌尿器科	午前	宮口 大志(新患) 計屋 紘信(再来)	計屋 紘信(新患) 大庭康司郎(再来)	大庭康司郎(新患) 宮口 大志(再来)	計屋 紘信(新患) 大庭康司郎(再来)	大庭康司郎(新患) 宮口 大志(再来)
	午後		予約外来		予約外来	
産婦人科	午前	梅崎 靖(産) 一瀬 俊介(婦)	一瀬 俊介(産) 松脇 隆博(婦)	松脇 隆博(産・婦)	松脇 隆博(産) 一瀬 俊介(婦)	一瀬 俊介(産) 梅崎 靖(婦)
	午後			梅崎 靖(産・婦) (診察 14:00 ~ 15:30)		
眼科	午前	久保田 伸	久保田 伸	久保田 伸 (診察 8:00 ~ 10:00) (完全予約外来)	久保田 伸	久保田 伸
	午後	久保田 伸 (完全予約外来)			久保田 伸 (完全予約外来)	久保田 伸 (完全予約外来)
耳鼻咽喉科	午前	宗 英吾 馬場 明子	宗 英吾 馬場 明子		宗 英吾 馬場 明子	宗 英吾 馬場 明子
	午後			宗 英吾・馬場明子 (診察 13:00 ~ 16:00)		
放射線科	午前	西田 晓史	西田 晓史	西田 晓史	西田 晓史	西田 晓史
	午後	福井健一郎 末吉 真	福井健一郎 末吉 真	福井健一郎 末吉 真	福井健一郎 末吉 真	福井健一郎 末吉 真
麻酔科 (ペインクリニック)	午前	香月 亮(外科外来③) 上村 裕平				

ご紹介いただく患者様につきましては可能な限り事前予約をおとりいただきますようにお願い致します。

内科系 第2・第4木曜日はベースメーカー外来を行っています。

毎週月・金曜日の午後は一般外来を受付けています。(受付 13時~16時) ■毎週火曜日午後は乳児健診(受付時間 11時~14時)

小児科 第4木曜日は心臓外来(受付 13時~16時) ■毎月第3火曜日は小児神経外来、午後(受付 10時~16時) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付 14時~16時)★予約制

外科 ①一般外科 ②呼吸器外科 ③消化器外科 ④乳腺外科 ■毎週月曜日の午後は乳腺外来を行っています。(受付時間 13時~16時)

整形外科 ご紹介は、整形外来宛でお願いします。救急患者については、救急室にて対応しています。

泌尿器科 每月第1火曜日の午後は、ストーマ外来を予約により行っています。 ■毎週火・木曜日の午後は、検査予約外来を行っています。

産婦人科 每週火曜日の午後は母乳育児指導を受け付けています。(受付時間 13時30分~15時30分)

毎週水曜日の午後は一般外来を受付けています。(受付時間 13時30分~15時30分)

眼科 每週水曜日の外来は完全予約制です。(診療時間 8時30分~10時00分)

耳鼻咽喉科 每週水曜日午後は一般外来を受付けています。(受付時間 13時~16時)

毎月第1・第3木曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、補聴器外来を行っています。

麻酔科 每週月曜日の午前中、ペインクリニック(痛み治療の専門科)を行っています。

当院の受付時間は、午前8時30分~午前11時00分迄です。

(2007.8.24)

10月下旬になってもなお暑い日が時々ありますが、天高く澄み切った空気にすすきが美しい季節となりました。読者の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。少し遅くなりましたが、嬉野医療センターから広報誌15号をお届け致します。

1面の写真は秋の日をいっぱいに受け、ピンク色に輝くコスモスの写真です。前号に引き続き産婦人科梅崎 靖先生に撮っていただきました。

今号は冒頭に新臨床研修制度について河部副院長から、続きまして地域医療連携推進について感染管理認定看護師の立場から岩谷佳代子さんに述べていただき、また治験室、リハ室、講習会、研修会報告と続き、今号の目玉の第1回「健康フェスタ」の催しをご紹介いたしました。子供たちが元気いっぱい病院見学をしている姿に私たち職員が元気を頂きました。また看護学校からは嬉看祭、看護学校新築安全祈願式などをご報告いたしました。

どうぞご自由にお持ちください。お読みいただきご感想などお寄せいただければ幸いに存じます。

広報編集委員長 計屋 紘信 (0954-43-1120 内線669)